

研究集会開催報告書

自然科学研究機構
国立天文台長 殿

平成23年 3月25日

(代表者)
所属・職名 横浜国立大学・教授

氏 名 小林 憲正



研究集会名	アストロバイオロジーワークショップ2010
開催期間	2010年 10月 30日 ～ 2010年 10月 31日
開催場所	多摩永山情報教育センター(東京都多摩市諏訪2-5-1)
参加人数	40名
研究集会の概要	第3回アストロバイオロジーワークショップを下記のように開催した。 日時: 2009年10月30日(土)午後13:20(13:00より受付) ～ 10月31日(日)16:30 会場: 多摩永山情報教育センター (〒206-0024 東京都多摩市諏訪2-5-1) 本ワークショップは、葉山の湘南国際村で2008年12月、2009年11月に開催されたものにつづくものである。主催は、日本アストロバイオロジーネットワークである。 18件の講演が予定されていたが、1件がキャンセルされ、17件の講演が行われた。内容は、天文学、化学、物理学、微生物学、地質学、惑星科学、工学など、多岐にわたった。また、総合討論の中で、今後の日本のアストロバイオロジー研究の進め方などについても議論がおこなわれた。

(裏面あり)

研究集会の成果	アストロバイオロジーは、宇宙における生命の起源・進化・分布・未来を探る学際的分野であり、天文学から生物学にいたる、多くの分野の科学者の協力が必要である。欧米では、大規模なアストロバイオロジーの研究集会が開催されているのに対し、日本での研究体制は立ち後れていた。2008年に開催された、第1回のアストロバイオロジーワークショップにおいて、日本のアストロバイオロジーの研究体制が議論され、それに基づき、2009年1月から、日本アストロバイオロジーネットワークが創設された。今回のワークショップは、ネットワークが主催する、2回目のワークショップということになる。 今回のワークショップでは、これまでのワークショップに日程の都合により参加できなかった研究者の何人かが初めて参加、講演することができた。特に、地質学分野では、東北大学の掛川武教授のグループが「地質学的観点から見た化学進化の問題」というワークショップ内セッションを企画し、総合的な議論を行った。 注目される発表としては、日本独自の火星生命探査計画案を、東京薬科大学の山岸明彦教授が発表し、議論が行われた。また、宇宙科学研究所の春山純一博士は、月におけるアストロバイロジミッションを提案した。このほか、生命探査用の機器開発や、宇宙ステーションを利用する教育プロジェクトなど、新たな話題が提供され、日本におけるアストロバイオロジー研究の幅が広がりつつあることが実感できるとともに、様々な分野の研究者による将来の共同研究についても議論することができた。
その他参考となる事項 (希望事項も含む)	会場費は、参加者からの登録費でまかない、国立天文台からの補助は、遠方よりの参加者の旅費に使わせていただいた。 2011年度にもひきつづき同様のワークショップを開催する方向で検討することとなった。